

— 告 告 —



青木 聡吾 (あおき そご)
金沢工業大学大学院工学研究科
機械工学専攻
博士前期課程一年
岐阜県立可児高等学校出身

青春を全力で疾走し、 答辞にこめた成長への感謝。

入学後の自身の歩みを等身大で語る青木さんから、青春を謳歌し疾走する風を感じた。課外活動で参加した夢考房・人力飛行機プロジェクトでは、炭素繊維を使った機体の構造設計を担当し、テスト飛行で離陸失敗に終わった先輩たちの無念を晴らした。「一年次のあの光景が頭から離れず、『何としても飛ばす』の思いで頑張りました」。

三菱航空機の「民間機関発体験型教育プログラム」などに次々と参加した。「新しい知識にふられる喜びとともに、仲間と教えたり教えられたりするなかで、自分が確実に成長していく実感を体に刻めた四年間でした」

昨年には、米国に拠点を置く航空関係業界の団体 ISTAT (国際輸送航空機貿易協会) が、グローバルに活躍する航空系エンジニア育成のために設ける奨学金の給付が決まった。「ISTAT のメンバーシップや、主催する国際会議への参加登録費が五年間免除となるチャンスも活かしたい」と、次なるステップアップを見据える。

ただ、その瞳は取材当日、ちよつと眠たげだった。「KIT の国際交流プログラムで仲の深まった海外の友人と通話アプリで話し込んでしまい、寝たのは朝四時でした」と明かした彼は、前日、卒業生総代と

して答辞を読んでいた。

夢考房プロジェクトを通して、他者の優れた点に敬意を払い、互いの長所を活かすことの重要性を学び、その経験と KIT で身につけた人間力を今後の糧にする決意と感謝の気持ちを、感動的に伝えた。そして、大学院生となった現在、卒業研究で取り組んだ「炭素繊維強化複合材料のリサイクル」をさらに深めようと、カナダにある大学への留学も視野に入れている。

ワイルドな一面もある。趣味の自転車で、約三百キロの道を帰省したという。実家のある可児市は、安土桃山の頃、志野焼の茶陶を生んだ焼き物の里だ。五月、しつらえが風炉に変わった茶室で、「薫風自南来」の一行を目にした時、爽やかな風を吹かせ駆け行く青木さんの姿が立ち上がった。

金沢工業大学

石川県野々市市扇が丘七-1
電話番号 (076) 248-1100

KIT
キャンパス
レポート 20
文・杉村裕之

振り返れば、この四年間は挑戦の軌跡だった。夢考房プロジェクトと並行して、アジアの学生と多国籍チームを組み、社会が抱える問題の解決策を当事者の立場で探る [KIT Online Social Innovation Program]、全国学生英語プレゼンテーションコンテスト、入学前から強く憧れていたボーイング社の [Boeing Externship Program]、